

本レポートの趣旨と論点

本レポートでは、境港市の水産関連産業、境港市や鳥取市の中心商店街、鳥取市の経済構造など鳥取県に即した具体的問題の研究を進める一方で、県内企業の海外展開と雇用の影響、日韓の地域格差など広域的視点から地域を捉える研究も進めている。またこれら研究は、経済・産業、地域の生活、地域共通基盤の分野に属し、地域の自立に関わる基本的な研究でもある。

本報告のうち、水産関連産業、若年層の地域定住、地域マネージメント、住民自治と予算の各研究はこれまでの研究をさらに深め、市街地活性化研究は対象地域を拡大した。鳥取市産業連関表作成、県内企業の国際展開、交通システムは新たな分野での研究成果である。日韓の格差研究は、詳細であり海外研究交流の重要な成果である。

「地域の自立と鳥取県」はグローバル化や東京一極集中にふれつつ、鳥取県独自の自立のあり方、そのプロセスを論じたものである。

「小地域産業連関表の作成の試行とその活用」は鳥取市の産業連関表を独自に作成し、鳥取市の経済構造把握を試みたものである。実験的な取り組みであり、詳細化すべきところはあるが、鳥取県における鳥取市の経済的特徴、地域性が把握できる。また注目度が高い東部地域の観光産業の経済的影響度も試算している。

「鳥取県境港市を中心とした水産業の現状と将来展望」は、これまでとっとり総研が注目してきた境港市の水産業の実際の姿を、事業者へのインタビューによって解明を試みたものである。実際の事業構造を把握するとともに、統計分析によって課題を提示し今後の方向性への提言を行っている。

「製造業と地域雇用」は、製造業の地域雇用における重要性を指摘する一方で、その誘致の困難性や海外投資の進展がこれを阻害することが懸念される状況にあって、県内企業の海外投資の影響を既存の研究、企業へのインタビューによって把握を試みたものである。

「鳥取県内の製造業中小企業の経営及び海外展開に関する考察」は、県内企業の輸出入、海外企業との提携、海外生産の状況をアンケート調査、企業へのインタビューによって明らかにしようとしたものである。

「交通拠点としての鳥取県の現状と課題」は、鳥取県と他地域の人と物の移動を、移動目的、物の種類、交流地域、交通手段、コストなどを多面的に分析することによって、鳥取県の交通動向全般の特徴把握を試みたものである。

「水木しげる関連事業と境港商店街の地域マネジメント」は、商店街活性化における地域マネジメントの好例として、研究を進めてきたものである。前号では観光地としての境港商店街の経済効果を把握したが、本研究では地域の居住者の意識調査を中心に研究内容を深め、範囲を広げている。

「鳥取市の中心市街地商店街活性化に関する考察」は、鳥取市市街地形成の歴史を踏まえ、商店街の形成・継承を経営者の世代交代と経営意識に注目し、中心商店街活性化の方向を論じている。同時にこれに関わる市街地活性化の意義などにも言及している。

「若年層定住地域への転換の可能性」は、前号レポートで県内の人口問題として注目した若年層の県外流出について、その原因を若年層への意識調査によって探るとともに、自治体の対応状況を把握し、ここから若年層の流出を抑制し、定住地域への転換の可能性を探るものである。

「自治体予算編成過程への市民参加」は、地方自治の根幹である予算の編成、決定プロセスに住民意思を反映させる仕組みについて研究したものである。鳥取県の予算編成・決定プロセスを視点としつつ、他市町村で取り組まれた住民意思反映の諸例を分析し、そのあり方を考察している。

「地域発展の格差に関する韓日間比較研究」は、格差論議の諸研究を詳細に踏まえたうえで、鳥取県、韓国江原道それぞれの国内間格差を、データ分析、インタビューを通じ考察したものである。本論は韓国からの招聘研究員の考察であり、格差についての国際間での評価、重点の相違を提示した点でも意義がある。